

令和4年3月4日（金）

全国知事会 新型コロナウイルス緊急対策本部（第34回）における丸山知事 発言（発言要旨）

1. 積極的疫学調査（濃厚接触者の特定）について

濃厚接触者の特定を止めようという知事の発言が複数あったが、これは絶対に反対である。

（濃厚接触者の特定を）止めると、発見できるはずだった感染者を放置する、そして、自宅待機中に、感染、陽性になる人を放置するという意味において、治療にも結びつかないし、感染をさらに広げることになるためである。

これは感染放置政策と同じであり、積極的に取られるべきものでは決してないと思っている。

感染が広がっているから、手が回らないから、感染者も含まれる濃厚接触者を追わないというのは間違いであり、広がっているからこそ、追えるだけ追うということをやっているかしなければならないと思っている。

手が回らないから止めるということ、例外的に認めるということは構わないが、和歌山県の仁坂知事がおっしゃったように、そういった地域なのであれば、既に市中感染拡大地域となっているため、（その他の地域との）往来自粛も含めて、県外との往來を強力に制限してもらった上で、そういうこと（濃厚接触者の特定を止めるという例外的取扱い）を認めるということをやっていただきたい。

また、濃厚接触者を自宅待機させていると、医療スタッフが足りないで困るといったことを、政府の専門家の場面で言われている方もおられるが、この感染者かもしれない濃厚接触者、また数日後に感染者になるかもしれない濃厚接触者を、医療に従事させなければならない状況は、既に医療ひっ迫や医療崩壊の状態だと政府がきちんと認定をして、必要な対策を盛り込んだ緊急事態宣言を出してもらおうことを、（当該都道府県に）相談してもらおうのが筋である。

こんなこと（例外的取扱い）を認めることは、感染した医療従事者に、医療の場に当たってもらわないと医療が回らないということを知っているのと同じであり、本末転倒である。

先ほど申し上げたように、仕方がない（調査の手が回らない）地域は、県外との往來を強力に自粛してもらった上で、一部認めるというようなやり方をすべきではないかと考える。

2. 感染者、濃厚接触者の療養期間の見直しについて

それから、感染者、濃厚接触者の療養期間の見直しについて、これは（緊急提言＜資料2＞において）引き続いての記述になるが、（この記述の中に）さらなる短縮をという話があるが、県内の事例を見ても、短縮期間後に陽性になった方が複数確認されている。

現状でも問題があると思っており、さらなる短縮化は容認できないと考える。

それから、政府または専門家間の情報発信、考え方についての意見として、重症化率が低い、また、感染力が強いので感染拡大は一定程度仕方がない、人流抑制も不要だ、といった情報発信を専門家を中心にされた。

その結果、感染力がものすごく強いということを見逃して、風邪やインフルエンザと同じだという風潮を、国民世論に巻きちらしたという弊害は、大変大きいと思っている。

(感染症法における) 5類感染症にできる訳はないと思っている。なぜなら、(インフルエンザとは異なり) 街のクリニックで医者が診てくれないのに、どうやってインフルエンザと同じようにやるのか。行き場がなくなり、治療を受けられない。(受診等の) 選択もできないのに、(インフルエンザ等の5類感染症と同じような) 選択肢があるかのような議論が、これだけまん延した。まん延させたということについて、大いに反省すべきである。

そして、先ほど和歌山県の仁坂知事もおっしゃったように、政府、厚生労働省のアドバイザリーボード<※1>で堂々と議論されている、この阿南さんという方のペーパーには、基本的な間違いもあるのではないかと思っている。感染後2日で感染させると書いておきながら、模式図は、(感染後) 翌日から感染を広げている。こんなにたくさん感染が広がってしまっているから、(調査等が) 間に合わないという図が示されているが、誤りではないか。誤りを基に政策を変えているようなアドバイザリーボード、そんなところで決まってくるこの政策で物事が動いてくることに、恐怖を覚える。

インパール作戦<※2>を指揮した司令官に対して、インパール作戦に従事させられた兵士が言っていた言葉に、「馬鹿な大将、敵より怖い」というのがある。

私たちはオミクロン株と戦っているが、司令塔である政府が、訳のわからないことを言っていないかどうか、チェックすることが私の仕事になってきており、勘弁してほしいと思っている。

※1 第73回 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(R4. 2. 24)

【リンク先】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00333.html

※2 インパール作戦

第2次世界大戦中の日本軍によるインド北東部の都市インパールへの侵攻作戦。

1942年ビルマ(現在のミャンマー)を席卷した日本軍はこの作戦を計画したが、成功を危ぶむ者も多く中止。しかし、第15軍牟田口廉也司令官は再びこれを取りあげて44年1月より実行し、自由インド仮政府首班スバース・チャンドラ・ボース下のインド国民軍も参加、同市を包囲した。だが、長い補給路、制空権のないことなどから惨敗。3師団長の更迭を生む混乱の中で撤退した。

(出典 株式会社平凡社 世界大百科事典 第2版)